

原作者  
脚色者  
監督者  
撮影者

帝  
紀  
卷

現代映畫  
内田虎之助 著  
三鈴上木月重茂吉吏

主要役割——

樂屋番の娘  
娘義太夫花蝶

樂屋番の娘おたれ  
娘義太夫花蝶

解說

か一に次ぐ  
略筋——道  
れるメリ一

三太郎の生

師、花子そ

間三太郎が

彼は花子を紹介され  
て野心を抱いた。そして  
度三太郎に邪魔された。

10

1

10

10

61

10

1

寫「踊る幻影」帝キネ鈴木重吉作品。



箱抜奇術の事務所では開封、女王奇術師道化師等が箱抜奇術で次の次に出現する空虚で空中曲藝による。彼等は女王を箱抜奇術に出さうといふのである。道化師は懶むた。次第に奇術師に心をなげた。そこでゆくであらう女王の事態を思ふと彼は益々懶げ込んだ。遂に秋山は女王を伴つて料理屋へ行つた。かくて箱抜奇術公開の日は來た。箱抜奇術は始められた。秋山の打つたビストルな台圍に出たのは女王でなく三太郎だつた。別の箱にビストルは放つた。現れたのは園長だつた。そして秋山の面目は丸つぶれとなり、ほゝ笑むのは三太郎だつた。

樂屋番の娘おたねは奇術師を思つてあたがい女王さみ親しげに外す出の好みで部屋に忍び舞臺ではヒューリックの曲藝が始まつてゐる。ヘンリイ秋山の出場も近づいて來た。が秋山の部屋を開けた時彼は倒れてゐた。

仆れた秋山に代つてヒューリックが舞臺に出たが箱の中に入る女王がない。仕方なくおたねに出来よと園長は叫んだ。おたねの頭は迷惑である。合図のヒストルには自分のための實彈がある筈しかし詰めた彼女は女王に代つて箱の中に入つた。ヒストルは放たれた。箱の中にはおたねが仆れてゐる。観客は起立となる。俄然喧騒の巷美化した。

三太郎は活動寫眞館の中にあたのであつた。彼は胸の中からメタルを出してみた。其處には女王花子が微笑んでいた。